

平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月6日

上場会社名 株式会社 翻訳センター  
 コード番号 2483 URL <http://www.honyakuctr.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 郁男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長兼総務部長 (氏名) 中本 宏

TEL 06-6282-5013

四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	4,184	38.2	146	4.3	143	2.4	70	1.2
25年3月期第2四半期	3,027	20.9	140	△6.8	139	△6.1	69	△12.7

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 86百万円 (22.3%) 25年3月期第2四半期 70百万円 (△9.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	41.57	—
25年3月期第2四半期	41.05	—

当社は、平成25年3月1日開催の取締役会の決議に基づき、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っております。そのため、当該分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	自己資本比率	%
26年3月期第2四半期	3,780		2,473		65.3	
25年3月期	3,822		2,463		64.3	

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 2,469百万円 25年3月期 2,458百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	4,500.00	4,500.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成25年3月1日開催の取締役会の決議に基づき、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っておりますが、平成25年3月期の配当金については、当該株式分割前の株式数を基準に配当を実施しております。

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,800	21.0	470	11.1	470	11.1	240	9.0	142.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	1,684,500 株	25年3月期	1,684,500 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

26年3月期2Q	— 株	25年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	1,684,500 株	25年3月期2Q	1,684,500 株
----------	-------------	----------	-------------

当社は、平成25年3月1日開催の取締役会の決議に基づき、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っております。そのため、当該分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して、上記の株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による経済対策や金融政策により円安、株高が進行し、輸出企業中心に業況判断や消費者心理にも改善の動きが見られました。一方、米国経済は緩やかな回復傾向にあるものの、中国をはじめとする新興国の景気減速など、先行きの不透明感を拭えない状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループでは平成25年3月期から平成27年3月期までを対象とする第二次中期経営計画を昨年9月に発表し、「すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ」という経営ビジョンのもと、言葉に関する事業領域の拡大による新たな価値創造を推し進め、企業のグローバル展開に伴う翻訳・通訳需要の獲得に努めてまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、翻訳事業が堅調に推移したことに加え、昨年9月に連結対象としたISSグループの業績が好調であったことから前年同期比38.2%増の4,184百万円となりました。利益面においては、翻訳事業における人員増の影響などにより、営業利益は前年同期比4.3%増の146百万円、経常利益は前年同期比2.4%増の143百万円、四半期純利益は前年同期比1.2%増の70百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分の一部変更として「語学教育事業」を追加しており、当第2四半期連結会計期間より「通訳事業」を報告セグメントとして追加しております。以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### ① 翻訳事業

特許分野では、企業の知的財産関連部署における取引拡大と新規顧客開拓が奏功したものの、既存顧客である特許事務所からの電気関連出願用明細書の受注が減少したことから、売上高は前年同期比1.9%減の844百万円となりました。医薬分野では、プリファードベンダー（注）契約に基づく受注が継続的に拡大していることに加え、新たなメガファーマとのプリファードベンダー契約の獲得や製薬会社からの新薬申請資料の受注が好調に推移したことから、売上高は前年同期比8.7%増の949百万円となりました。工業分野では、ウェブサイト関連の大型プロジェクト案件や情報通信関連企業からの定期案件の獲得に加え、株式会社アイタスから譲受したローカライズ案件が順調に推移したものの、自動車関連企業からの受注が振るわず、売上高は前年同期比0.1%減の830百万円となりました。金融分野では、前期より注力している企業の管理関連部署への営業活動が奏功したことに加え、保険会社や金融情報サービス企業からのスポット案件を獲得したことから、売上高は前年同期比19.7%増の266百万円となりました。

これらの結果、翻訳事業の売上高は前年同期比3.6%増の2,890百万円となりました。

#### ② 派遣事業

派遣事業においては、各種金融機関や情報通信関連企業への通訳者・翻訳者派遣などが好調に推移し、ISSグループの売上が寄与したことから、売上高は前年同期比285.6%増の691百万円となりました。

#### ③ 通訳事業

通訳事業においては、株式会社アイ・エス・エスの通訳事業が好調に推移しており、なかでも、大手通信関連企業や製薬企業からの受注が増加したことから、売上高は前年同期比567.9%増の242百万円となりました。

#### ④ 語学教育事業

語学教育事業においては、株式会社アイ・エス・エス・インスティテュートの通訳者・翻訳者育成のレギュラーコース（4月～8月開講）にて計画を上回る受講申込を確保できたことから、売上高は前年同期比2,656.7%増の112百万円となりました。

#### ⑤ その他

その他のセグメントについては、6月に横浜で開催された「第5回アフリカ開発会議（通称：TICAD V）」の全体運営を担当するなど、株式会社アイ・エス・エスの国際会議企画・運営事業の売上が大きく寄与したことから、売上高は前年同期比1,232.7%増の246百万円となりました。

（注）プリファードベンダーとは、企業が優秀な人的リソースの確保と費用低減を狙い、優先的に業務を委託する特定の調達先（ベンダー）を指す。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は2,991百万円となり、前連結会計年度末に比べ121百万円減少いたしました。これは主に東京本部の移転を予定していることに伴う差入保証金の支払い、未払法人税等の支払いおよび配当金の支払いなどにより現金及び預金が171百万円減少したことによるものであります。固定資産は789百万円となり、前連結会計年度末に比べ79百万円増加いたしました。これは主に東京本部の移転を予定していることに伴い、差入保証金が増加したことによるものであります。

この結果、総資産は3,780百万円となり、前連結会計年度末に比べ41百万円減少いたしました。

### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は1,140百万円となり、前連結会計年度末に比べ40百万円減少いたしました。これは主に未払金が減少したことによるものであります。固定負債は166百万円となり、前連結会計年度末に比べ11百万円減少いたしました。これは主に年金資産の積み立てにより、退職給付引当金が減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,306百万円となり、前連結会計年度末に比べ52百万円減少いたしました。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は2,473百万円となり、前連結会計年度末に比べ10百万円増加いたしました。これは主に為替換算調整勘定が増加したことによるものであります。

### (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は1,438百万円となり、前連結会計年度末に比べ174百万円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは49百万円の収入（前年同四半期は24百万円の収入）となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益の計上による収入143百万円および法人税等の支払額70百万円でありま

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは158百万円の支出（前年同四半期は43百万円の収入）となりました。

主な要因は、差入保証金の差入による支出120百万円であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは79百万円の支出（前年同四半期は292百万円の支出）となりました。

主な要因は、配当金の支払額75百万円であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の業績予想については、現時点では平成25年5月10日の決算発表時に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,747,694	1,576,077
受取手形及び売掛金(純額)	1,142,828	1,138,845
仕掛品	61,938	110,516
その他	160,990	166,092
流動資産合計	3,113,451	2,991,531
固定資産		
有形固定資産	86,413	77,018
無形固定資産		
のれん	250,817	245,415
その他	111,154	89,786
無形固定資産合計	361,971	335,202
投資その他の資産	260,711	376,827
固定資産合計	709,096	789,048
資産合計	3,822,548	3,780,580
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	535,017	572,179
未払法人税等	80,830	78,657
賞与引当金	147,845	174,854
その他	417,410	314,540
流動負債合計	1,181,104	1,140,230
固定負債		
退職給付引当金	130,467	119,013
役員退職慰労引当金	35,400	35,400
その他	12,474	11,975
固定負債合計	178,341	166,389
負債合計	1,359,446	1,306,619
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	588,443	588,443
資本剰余金	478,823	478,823
利益剰余金	1,389,594	1,383,829
株主資本合計	2,456,860	2,451,095
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	346	△98
為替換算調整勘定	1,567	18,236
その他の包括利益累計額合計	1,913	18,138
少数株主持分	4,328	4,725
純資産合計	2,463,102	2,473,960
負債純資産合計	3,822,548	3,780,580

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	3,027,321	4,184,001
売上原価	1,699,789	2,369,615
売上総利益	1,327,531	1,814,386
販売費及び一般管理費	1,187,166	1,667,963
営業利益	140,365	146,423
営業外収益		
受取配当金	725	1,165
受取手数料	384	384
その他	877	974
営業外収益合計	1,986	2,523
営業外費用		
為替差損	2,711	5,822
営業外費用合計	2,711	5,822
経常利益	139,641	143,124
税金等調整前四半期純利益	139,641	143,124
法人税等	70,112	73,345
少数株主損益調整前四半期純利益	69,528	69,779
少数株主利益又は少数株主損失(△)	363	△259
四半期純利益	69,165	70,038

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	69,528	69,779
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△135	△444
為替換算調整勘定	1,415	17,326
その他の包括利益合計	1,280	16,881
四半期包括利益	70,809	86,660
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	70,395	86,263
少数株主に係る四半期包括利益	413	397



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	139,641	143,124
減価償却費	29,983	38,898
のれん償却額	8,797	33,973
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△274	2,286
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△48,824	26,955
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△10,500	—
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△19,800	△18,000
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	6,293	△11,454
受取利息及び受取配当金	△1,001	△1,507
売上債権の増減額 (△は増加)	115,095	5,593
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△66,914	△47,986
仕入債務の増減額 (△は減少)	682	36,215
その他	99	△89,471
小計	153,277	118,626
利息及び配当金の受取額	1,001	1,507
法人税等の支払額	△130,180	△70,741
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,097	49,392
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△39,318	△5,460
無形固定資産の取得による支出	△6,413	△441
定期預金の預入による支出	△3,000	△3,000
定期預金の払戻による収入	200,000	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△123,452	—
事業譲受による支出	—	△28,571
貸付金の回収による収入	50	123
差入保証金の差入による支出	△636	△120,064
差入保証金の回収による収入	16,355	614
その他	△328	△1,575
投資活動によるキャッシュ・フロー	43,256	△158,374
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	△216,500	—
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△581	△3,336
配当金の支払額	△75,802	△75,802
財務活動によるキャッシュ・フロー	△292,883	△79,138
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,095	13,503
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△224,433	△174,617
現金及び現金同等物の期首残高	1,641,900	1,612,949
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,417,467	1,438,332

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	通訳事業	語学教育 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,789,170	179,232	36,333	4,079	3,008,815	18,506	3,027,321
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,697	30,751	—	—	34,448	38,784	73,233
計	2,792,867	209,983	36,333	4,079	3,043,264	57,290	3,100,554
セグメント利益又は損 失(△)	151,177	13,221	4,554	△10,804	158,149	△9,664	148,484

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	158,149
「その他」の区分の損失(△)	△9,664
セグメント間取引消去	678
のれんの償却額	△8,797
四半期連結損益計算書の営業利益	140,365

II 当第2四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	通訳事業	語学教育 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,890,985	691,236	242,678	112,457	3,937,358	246,643	4,184,001
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,043	14,408	7,729	638	23,820	17,693	41,513
計	2,892,029	705,645	250,408	113,096	3,961,178	264,336	4,225,515
セグメント利益又は損 失(△)	85,213	55,182	18,100	14,563	173,059	△7,585	165,474

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	173,059
「その他」の区分の損失(△)	△7,585
セグメント間取引消去	13,017
のれんの償却額	△32,068
四半期連結損益計算書の営業利益	146,423

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「その他」に含めていた「語学教育事業」について、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

また、当第2四半期連結会計期間より、「その他」に含めていた「通訳事業」について、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。